

1 カリキュラム・ポリシー

教育学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下のような教育課程の編成・実施方針を明示します（通信教育課程は別に明示）。

- ① 1年次においては、全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード玉川教育・FYE科目ならびに情報リテラシー科目に加えて、基礎的な言語操作力、特に外国語の知識・学力を育成するためのELF科目を修得する。
- ② 1年次において教育・保育の専門研究の基礎段階となる教育学概論、教職概論を必修科目として学ぶ。
- ③ 1年次後半から2年次にかけて、教育・保育の理論的基礎となる科目群を必修選択科目として3科目以上修得する。
- ④ 教育・保育に携わる人としての基礎的な言語操作力、数理分析力を保証するため、教育学部の定めたレベルの英語・国語・数学の検定・資格を2年次末までに取得している事を3年次以降の科目履修の基本とする。
- ⑤ 2年次までに必修あるいは必修選択科目としての基礎科目を修得し、さらに3年次、4年次では各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として修得する。これにより、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある7つの項目で示した能力を総合的・網羅的に獲得できる。
- ⑥ 教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として一つまたは二つの免許・資格取得が可能であるが、そのために2年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って、教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。いずれも基礎的・概論的な科目から各論的、実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていく。なお、一部の科目については1年次後半より履修する。
- ⑦ 各学校種の免許取得のための学修を基礎として、広い教養と深い専門性を獲得し、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識、汎用的技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会や既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識の獲得を追究するために、また、対話的な深い学びが進められるようにアクティブ・ラーニング等を取り入れ、学生の知的探究心を高める機会となる内容を以って構成する。
- ⑧ ELF、IB教育プログラムを活用した国際的な学びや最大1年間の留学、もしくは、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学への対応が実現されるように科目やプログラムを設定する。
- ⑨ 本学建学の理念である「全人教育」の六つの価値および「12の教育信条」を編成の根本原理としつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、かつ児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めて行くことができるように配列した教育課程とする。
- ⑩ 教育実習や保育実習、インターンシップなど、現場に行く機会をできるだけ重視し、現場での子どもとの関わりや活動から、教員・保育者としての専門性の向上を目指す教育課程を編成する。

[乳幼児発達学科]

乳幼児発達学科の教育課程は以下の方針に基づいて編成する。

- ① 幼稚園教諭1種免許および保育士資格を取得するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1年次から4年次にかけて科目を配列する。
- ② 乳幼児教育・保育に対する全般的な知識や技能を身に付けることを中核にした教育課程とし、そこに人間の発達、子育て支援、保育内容全般などを加え、さらに保育者としての専門性を社会的なニーズと関連させて学べるような教育課程を編成する。
- ③ 免許・資格に関連する科目は、歴史や現代的な課題を踏まえ、国としての新たな方向性や流れを重視しつつ、教育・保育としての不易な部分を丁寧に教育課程の中に取り入れ、知識や技能の両面を獲得可能な内容を以って編成する。

2 卒業要件

乳幼児発達学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

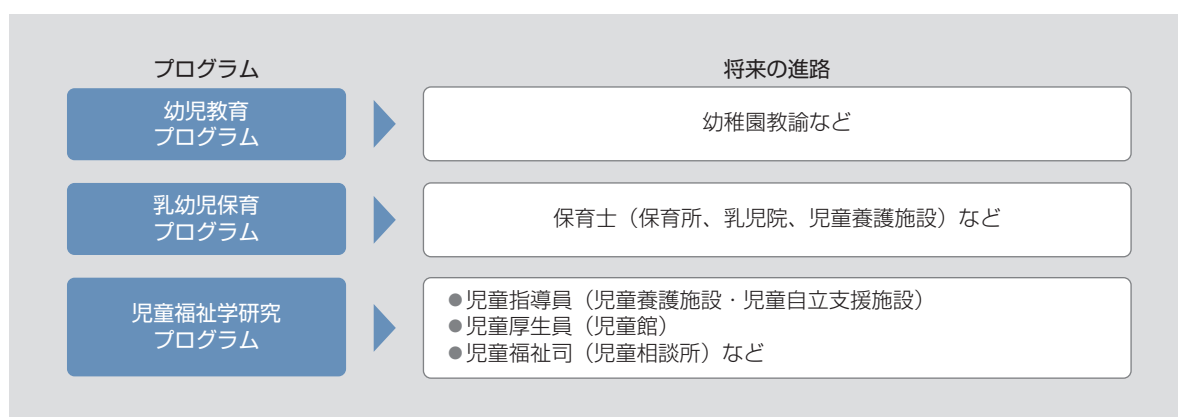
- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」
「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
- (5) 教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 自然科学科目群：「情報科学入門」（2単位）
教職関連科目群：「体育」（1単位）
〈必修選択科目〉 人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群：「名著購読（人文科学）」
「名著購読（社会科学）」「名著購読（自然科学）」より2科目（2単位）
言語表現科目群：「ELF101」「EL102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」
「ELF401」「ELF402」より1科目（4単位）
- (6) 学科科目について次の必修科目および必修選択科目を修得していること
100番台科目より：
〈必修科目〉 「教育学概論」「教職概論」（4単位）
〈必修選択科目〉 「教育哲学」「教育心理学」「教育史概論」「教育方法学」「教育社会学」
「発達心理学」「教育行政学」の7科目より3科目（6単位）
200番台科目より：
〈必修科目〉 「全人教育実践演習A」「全人教育実践演習B」（4単位）
300番台科目より：
〈必修科目〉 「現代教育研究Ⅰ」「現代教育研究Ⅱ」「特別支援教育」（6単位）
400番台科目より：
〈必修科目〉 「卒業課題研究Ⅰ」「卒業課題研究Ⅱ」（4単位）

3 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	必要単位数	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目	7単位	
	教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目	9単位以上	
乳幼児発達学科科目群	必修科目	18単位	108単位
	必修選択科目	6単位以上	
	自由選択科目	任意（注1）	
累積修得単位		124単位以上	

（注1）選択科目は教育学部科目、ユニバーシティ・スタンダード科目、他学部他学科科目、500番台科目、単位互換科目を含む

4 履修モデル



履修モデル A 幼稚園教諭を目指すモデル

現在、全国各地で数多くの卒業生が現職の幼稚園教諭として活躍しており、各方面から高い評価を得ていることが、このモデルへの強い動機づけとなっています。

このモデルでの学修を通して、幼児教育のプロフェッショナルに求められる専門的知識・技術を修得し、子供の成長・発達、学問の進展、社会のニーズといった諸側面からの確に幼児教育を捉え、幼児教育を通じて社会文化の発展を担える専門職の養成を行います。

【志向するキャリア】

- 主に国公立の幼稚園の教員

履修モデル B 保育所の保育士、乳児院、児童養護施設等の専門職や幼稚園教諭を目指すモデル

乳幼児、就学前の保育や教育にかかわる専門職の育成ニーズは、未だに増加の傾向にあります。

その理由には、就学前の保育や教育の多様化があります。少子化の一方で、女性労働の増加、一人の子供に対する多様な保育および教育のニーズが発生しており、こうしたニーズに応えます。

【志向するキャリア】

- 保育所、その他の児童福祉施設（乳児院・児童養護施設等）の専門職
- 幼稚園、認定こども園、子育て支援施設、大学院進学（乳幼児科学領域）等